

厚生労働省行政事業レビュー講評 議事概要

1. 日 時

令和6年8月30日（金）17:00～18:05

2. 場 所

厚生労働省 省議室（9階国会側）

3. 出 席 者（五十音順）

外部有識者：石田委員、井出委員、井野委員、大屋委員、加藤委員、島田委員、関委員、高久委員、寺田委員、中益委員、橋爪委員、松村委員

厚生労働省：塩崎厚生労働大臣政務官、総括審議官（行政改革推進室長）、大臣官房会計課長、会計管理官、政策立案・評価推進官

4. 議 事 内 容

（議題）令和6年度厚生労働省行政事業レビュー講評

厚生労働省から令和6年度公開プロセス対象事業の点検結果、令和6年度外部有識者点検対象事業の点検結果について説明。その後、外部有識者から令和6年度行政事業レビューの取組を踏まえた評価すべき点や改善点等について講評。

なお、外部有識者からの講評の主な内容は次のとおり。

（石田委員）

- KPI や指標を設定し、エビデンスベースで目標に近づけたか分析する必要がある、ということを確認いただきそれぞれの事業で改善いただいた。

ドクターヘリの事業は、運行実態を把握していくこと、担い手の持続性を考える必要性や、さらには今後も適切な運営に向けて必要な予算を計上する必要がある。麻薬対策事業は、この事業を認知してもらい、更に役立つということを家族含めたステークホルダーへ伝えることが大切。就職氷河期への支援や、生活困窮者の支援は今の人手不足という状況を考えると、企業側から考えたときにこうした人たちが活躍してもらうことが重要である。また、いろいろな障壁を抱えている方の対応をする担い手の配慮も引き続き必要。不妊治療の支援については、要求額が減っているが後退しているというイメージにならないようにして欲しい。後期高齢者の健診事業は、個々の目標設定は必要と考える。

(井出委員)

- 今年度は書面審査のみ行ったが、レビューシートに詳細な記載がされている印象を受けた。レビューシートシステムを使って、原局と直接やりとりをすることで議論の深掘りをする事ができた。丁寧にご対応いただいた部局や事務局には感謝申し上げます。

(井野委員)

- レビューシートシステムが構築されたことで資料の確認時間の短縮が図られ、事業担当者とシステム内で直接やりとりすることにより、補足情報をいただいたので理解が深まった。

担当した事業では、概ね適切な事業運営がなされていると感じた。新たに成果指標を設定した事業は具体的な内容となっており、事業目的の達成度が図りやすく事業の発展にも期待が持てる。性質上目標設定が難しい事業もあると理解しているが、できるだけ効果測定できるよう引き続き検討してほしい。

- 一方で、当初予算で十分予算がまかなわれている事業の補正予算計上や繰越については、説明が不十分な印象を受けた。また、活動実績が低調な事業であっても継続した予算計上となっている事業があったので、適時のタイミングで予算計上する仕組みが必要と感じた。

(大屋委員)

- 現地視察を含め適切に対応いただき感謝申し上げます。
- 厚生労働省の事業の特徴としては、事業メニューを複数準備して都道府県や市町村に選択してもらうということがあるが、そうした場合、本省では事業効果を測れるデータを持っていないことが多々ある。これでは成果検証が十分にできないと考えるが、今回の公開プロセスの事業では、独自に成果を把握するという方向性が示されていることからこれは評価に値する。なお、なるべく事業を計画する時点で成果把握の方法を検討して、また、関連する事業から情報が流れてくる仕組みの構築など、行政事業レビューで得られた知見を次のステップとしていかせるようにしてほしい。

(加藤委員)

- 2年目の行政事業レビューとなるが、厚生労働行政の裾野の広さを改めて実感した。
- 書面点検では、レビューシートシステムを通じて行ったが、効率化、明確化が図られたことは大きな前進と感じる。次年度以降は今年度の意見を集結して、より改善して欲しい。
- 書面点検は、事業の目的が何かを念頭に置きながら点検を行った。ある程度時間をかけて行ったが、対面で理解を深めて評価したいと感じる事業もあった。例えば、書

面点検の中からいくつかの事業をセレクトして、事業担当者と対面で対応するなど、深度あるレビューができるように検討してほしい。

(島田委員)

- 様々な情報をまとめていただき感謝申し上げます。
- 現地視察の際に、現場の窓口の方の話を聞いたことは、事業の理解を深めることに繋がったと感じる。また、この方達の well-being を保つ重要性を感じた。麻薬対策、氷河期世代への支援、困窮者への支援事業は、共通した原因があると感じる。
- 事業が何のために存在しているかということをついて、最終的に何をしたいか、どう期待されているかを意識すれば、長期アウトカムの精度を上げることになり、それにより次は短期アウトカムに落とし込むことができるのではないかと考える。各事業バラバラではなく、共通した課題を抱えている事業もあるのではと考える。

(関委員)

- 書面点検について、担当した事業の中に、デジタル庁に一括計上したため、令和4年以降、予算の執行額が0で、来年度は予算要求せずに終了となる事業があった。これでは今回のレビューにおいて改善の提案をする意義がなく、また、その他の終了する事業や単年度事業についても同様であり、こうした事業は労力と時間の無駄と考える。5年に1度と言う機械的な当てはめではなく、予め内容を見て選定して点検対象とすべき。
- また、一つの事業を点検するのに、事業担当者とのやりとりを含めかなりの時間を費やすことになるので、予算の制約もあるかと思うが、例えば書面点検のみ担当する方を増やすことや、1人あたりの点検事業数を減らす工夫を検討してほしい。
それぞれ重要な事業なので、レビューの方法についても、引き続きご検討いただきたい。

(高久委員)

- レビューシートシステム導入は、一覧性があり点検の作業効率が上がり、レビュー全体の効率が上がったと感じる。
- 公開プロセスで担当した後期高齢者の健診事業は、執行等改善ということで今後期待したい。健診事業は過剰受診や機会費用などメリットとデメリットの両方が生じるプログラムなので、こうした事業はメリットの確認・効果検証に時間をかける必要がある。なお、事業によってはデメリットが想定されない事業もあるので、そういった観点で一つ確認・効果検証の度合いを分けても良いと考える。

(寺田委員)

- 書面点検はシステムが稼働したので効率は図られたと思うが、引き続き事業数が多い

いと感じるので、人数を増やすなど検討をして欲しい。

- 現地視察を行うことで事業を立体的に理解できると感じた。ドクターヘリや後期高齢者の健診事業は、様々なデータを集めて検証して改善を図るという点は評価できる。事業評価を行う際には、やはりデータの集約が必要となる。レビューがあると言うことを意識して、予算執行していく中でデータが集積できる仕組みを考えていただきたい。
- レビューを行うことは大変だと思うが、レビューがあるからこそ行政の効率性は図られると感じた。

(中益委員)

- 印象に残ったのは、医療における自治体のイニシアティブと事業レビューとの関係性。医療計画や地域包括計画が代表例だが、そもそも自治体の裁量が認められる場合があることから、医療サービスの一面に地域差が出ることもまた認められるといえる。これに対して、国が一律に効果的な指標を設定することの難しさがある印象を受ける。また、事業によっては、医療現場の方向性が自治体の方針に影響を与えるケースもあったように思われる。医療に関する専門性の高さからみても、医療従事者の意見が尊重されるべき必要があると思う反面、医療サービスや医療アクセスの地域差に繋がり、国民皆保険の前提となる医療機会の均等と緊張関係をはらむ可能性もあるので、厚生労働省は本事業レビュー等を通じて引き続き適切な調整を行っていただきたい。

(橋爪委員)

- 委員からの指摘や説明等を通じて、事業実施の改善に良い影響を与えていると感じた。公開プロセスは、事前勉強会や現地視察を通じて見えてくるが多かった。
- 一方、分野が多岐にわたる書面点検は今年度から初めて担当したということもあり、色々と苦労した点がある。システムは今後改善されると思うが、担当部局からの通知が見られる機能があれば、よりスムーズなやりとりができると感じた。
- 予算執行率が低いものや、成果目標が低調な事業については、ある程度の数値以下の事業については理由を記入しなければならない、というようなルールがあればやりとりが省略できると感じた。研修実施の事業については、オンライン化等進んでいる事業もあるので横展開できるような仕組みを導入して欲しい。

(松村委員)

- 厚生労働省の事業は様々な事業が関連付いていると考える。そのため、全体の政策の中において公開プロセスで扱う事業がどう位置付けられていて、他の事業がどうなっているか、事前の勉強会で示していただくと、全体共通する点を改善すべき話なのか、個別の改善の話をするのか、気付く機会になると思った。ただし、この場合、特定の課に負担が大きくなる可能性があるため、公開プロセスで扱う事業数を減らすな

どの対応が必要。それでも全体の中の位置付けを示すことで、一定程度レビュー全体の効率性に繋がると考える。

(以上)